上野栄一共著（小林正・高間静子・吉田百合子編）

ナースのための糖尿病療養指導テキスト

南江堂，2001年，A4版，294ページ，定価3,800円

松　浦　和　代

糖尿病患者教育に対する熱意から生まれた一冊である。糖尿病の何を指導するかではなく、糖尿病患者にどう指導すればどのような成果が得られるのか、を生き生きと論じている。内容の紹介に先立って、編者の富山医科薬科大学副学長の小林正先生が書かれた序文を引用したい。

－糖尿病およびその予備軍を含め、全国で1,400万人という多数の人々が医療の対象となる今日、医師のみで種々の合併症の抑制を達成することは困難である。糖尿病の合併症の予防には、患者教育が重要であり、このためには、コメディカルが参画するチーム医療が必要である。（中略）糖尿病患者700万人のうち、実際、医療機関で治療しているのは約半数であり、その理由として患者の知識不足、継続して受療することへの生活指導の不十分なことなどがあげられる。これらを解消するためには、ナース自らが充分な糖尿病の知識を身につけ、さらに、患者に対する指導力を身につけなければならない－

こうした展望に立ち、富山医科薬科大学は糖尿病ティーチング・ナースの育成コースを開設した。既に5年を経過したこのコースでは、医学部附属病院の糖尿病専門医による講義だけでなく、看護学科教授陣によるカウンセリングの講義やロール・プレイによる実技実習も多く行なっているとのことである。その実績をバックボーンに本書は編纂された。紙面に溢れる臨場感は、まさに看護実践の醍醐味を伝えるものである。

5部30章から成る本書は、まず第Ⅰ部で、糖尿病の医学的知識と治療・ケアの基本を解説している。第Ⅱ部には糖尿病合併症と療養指導のあり方が、また第Ⅲ部には、小児・ヤング糖尿病、糖尿病妊婦および老年者糖尿病の特性と療養指導上のポイントがまとめられている。

第Ⅳ部では、糖尿病教育の展開方法について、チームアプローチ、糖尿病教室と教育入院、教育評価の視点が述べられている。例えば、教育入院のカリキュラムの運用が図式モデルで示されているが、初回入院と再入院とでは介入の焦点が異なることを見事に論じ分けている。また、糖尿病患者教育にかかわるスタッフの“べからず”集などには、思わず苦笑させられた。

第Ⅴ部では、カウンセリング技術、教育技術、対人関係の技術、情報処理や実技指導の方法など、療養指導スキルアップの方略が具体的にまとめられている。

看護学生や新卒者の自己学習のテキストとして、また2001年度から開始となった糖尿病療養指導士認定試験受験のための参考書として、大いに活用したい。

ちなみに上野栄一氏は現在、旭川医科大学地域保健看護学講座の助教授である。

（旭川医科大学　臨床看護学講座）